

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和2年7月28日～29日に令和2年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和2年8月～12月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での予報を報告します。

■ 海況

**黒潮**：A型基調で推移するものの、一時的にB型になることがある。

（説明）2017年8月に大蛇行になり、3年が経過しました。流型が一時的に変わることが予測されますが、大蛇行は継続する見通しです。

**沿岸水温**：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時に「極めて高め」となる。伊豆諸島海域は「高め」～「極めて高め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、  
 高め：平年値+1.5℃程度  
 極めて高め：平年値+2.0℃程度

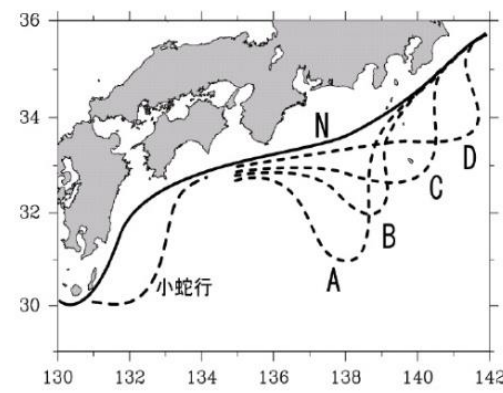


図1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ）

**来遊量**：前年を上回る。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000年代以降増加していますが、神奈川県沿岸の定置網や一本釣りでの漁獲量は、資源量の増加に反して、ここ数年減少しています。

これまでの研究から、東京湾～相模湾におけるマサバ漁獲量は、①当年6月の伊豆大島周辺の塩分、②当年5月の三崎周辺の定置網のマサバ漁獲量、③当年8月の東京湾の水温と関係があると考えられています。今年得られたデータ①②に基づき、今期の来遊量を予測したところ、前年を上回ると見込まれました。

魚体サイズは、1～5月に県漁業調査指導船「江の島丸」が伊豆諸島周辺で行った調査では尾叉長30～34cm（体重310～470g）主体に漁獲されたことから、今シーズンはこのサイズが主体となるでしょう。



■ マイワシ

**来遊量**：前年を下回る。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

本県沿岸域では、3～4月にかけて小～中羽を主体に来遊がみられ、平年（過去5年平均）の3.7倍の漁獲がありました。一方、5月に入ると0歳魚（2020年級群）の来遊が始まったものの、好調であった前年や平年と比較すると低調に推移しました。

2020年8月～12月は、近年の傾向から0歳魚が漁獲の主体となるでしょう。下半期の本県沿岸域の0歳魚の漁獲量は、相模湾の春シラス漁におけるマシラス漁獲量と正の関係が認められています。今年のマシラス漁獲量は前年同期の11.3%と近年にない低調であることから、今漁期の漁獲量は前年を下回ると考えられます。



■ カタクチイワシ

**来遊量**：低調であった前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域の分布量の減少が顕著になっています。魚体サイズの傾向も高水準期を支えた大型成魚（体長12cm以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

8月中旬以降、ほとんど漁獲されない状況となる近年の傾向から、今シーズンについても来遊量が増加するとは考えにくく、未成魚（体長9cm未満）主体の漁獲になると考えられます。ただし、今年は7月に漁獲量の増加がみられており、今後の状況が注目されます。



■ マアジ

**来遊量**：前年並。

（説明）東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は低位・減少傾向であり、南方海域からの相模湾への来遊は期待出来ません。

今年は相模湾でジシダの漁獲量が1t弱であったことから、相模湾周辺海域での発生群は平年並であると考えられます。このことから2020年8月～12月の漁獲量は前年並でしょう。

